

Q & A

Q. 「お薬手帳」は、どんなことに役立つの？

A. 「お薬手帳」とは、各医療機関で処方された薬の種類や量を整理して記入することで、医師や薬剤師にあなた自身がこれまでどんな名前の薬を飲んでいるかを正確に伝えるものです。薬の名前が分かることで、飲み合わせや副作用などの注意点を把握することができ、より安全で安心な薬物治療につながり、最近話題のポリファーマシー（多剤併用）の防止にも役立ちます。

Q. 血圧の薬や糖尿病の薬など、どんな病気で飲んでいるかは分かっているけれど、それではダメ？

A. 血圧の薬と言っても、血管を広げる作用で降圧効果を出す薬があったり、リラックスさせることで血圧を下げる薬があるなど、さまざまな種類があります。また、薬の成分によって薬同士の飲み合わせや、注意が必要な食べ物も異なり、さらには同じ成分だとしてもメーカーによって、名前が異なることがあります。薬の名称をすべて覚えることは大変困難なので、必ずお薬手帳に記載しましょう。

Q. いつも同じ薬をもらっているのに、「お薬手帳」は更新しなくていいのでは？

A. 災害時や旅先での急病やケガなどでかかりつけの医療機関に行けない場合にも、薬の記録が一目で分かる「お薬手帳」は治療に大変役に立ちます。同じ薬をずっと飲んでいても、第三者が見たときにご本人に直接確認できなかったら、現在は何も服用されていないと判断されてしまう可能性があります。飲んでいる薬は必ず更新しておきましょう。

お薬手帳のポイント

- ▶市販薬を購入するときも、持っていきましょう。購入した市販薬や服用しているサプリメント、合わなかった薬、緊急連絡先、既往歴、アレルギー歴など必ず記載しましょう。
- ▶体調の変化や気になったこと、医師や薬剤師に相談したいことを書いておきましょう。
- ▶飲んでいるすべての薬を「1冊」で記録することが大切です。病院ごとや薬局ごとに別々の手帳を作らないようにしましょう。
- ▶平成28年4月から国の決まりにより、お薬手帳を提示すると、お会計が安くなる場合もあります。



薬局には処方せんがなくても入れます。どなたでも薬や健康のことで分かりにくいことや、不安に感じるがありましたら薬局をいつでもご利用ください。（小諸北佐久薬剤師会より）

☒ 高齢福祉課 高齢者支援係



高齢になると服薬が多くなりますが、現在、「お薬手帳を見せてください」と薬局や病院等と言われる機会が多くなっていると感じていませんか。今回は、お薬手帳を活用することで得られる様々なメリットについてご紹介します。

「お薬手帳」を活用しましょう

薬の情報を正確に伝えます	事故や災害時にも薬がわかる
薬の重複や飲み合わせを防止	受診時や薬局でお見せ下さい
同じ薬による副作用の再発防止	